



ひびき

Letter of the M.Y. elementary school

南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい かがやく子 ～

学校通信 NO.360
令和8年度 10月号
令和8年 9月29日

見る角度を変えると、見えてくるもの

校長 岸 俊介

ニュースを見ていると、メジャーリーグで活躍する日本人選手の話を目にすることがあります。「今季〇勝目」「第〇号ホームラン」など、数字を見るだけでも、その活躍ぶりが伝わってきます。

ところが最近のメジャーリーグでは、勝利数やホームラン数といった馴染みのある数字だけでなく、様々な角度から選手の働きを捉える指標が使われています。例えば、打撃や走塁、守備などを含めて選手の総合的な貢献度を捉えようとする「WAR (Wins Above Replacement)」や、平均的な野手と比べて、守備によってどれだけ多くアウトを奪ったかを示す「OAA (Outs Above Average)」などがあります。

こうした指標について知り、興味深く思ったことがあります。それは、「見る角度を変えることで、それまで見えていなかった選手のよさが見えてくる」ということです。例えば、守備では「エラー」という記録だけでは、その選手のよさを十分に捉えられないことがあります。普通なら追いつくことが難しい打球に追いつき、アウトにする。記録の上では同じ一つのアウトでも、そのプレーの難しさまで見ることで、別の価値が見えてきます。

これは、学校で子どもたちを見るときにも通じるところがあるように思います。

課題を手早く解決する。短距離走で結果が出る。のびのびと絵を描く。堂々と発表できる。こうしたよさは、比較的見つけやすいものです。しかし、子どもたちのよさは、それだけではありません。困っている友達にそっと声を掛ける。みんなが使った物を黙って片付ける。友達の意見を最後まで聞く。すぐには答えが出なくても、粘り強く考え続ける。そんな姿にも、一人ひとりのよさが表れています。

また、同じ「できた」という結果であっても、そこに至るまでの努力や、その子にとっての難しさは一人ひとり違います。反対に、結果だけを見れば「できなかった」としても、以前よりできるようになったことや、もう一度挑戦しようとした姿があるかもしれません。一つの視点だけで見ていたら、そうした小さな成長を見逃してしまいます。

だからこそ学校では、一人の子どもを様々な場面で、多様な視点から見つめることを大切にしたいと思います。そして、「頑張っているね」だけではなく、「友達が困っていることに気付いて声を掛けていたね」「前は途中で諦めていたけれど、今日は最後まで考えていたね」と、その子のよさや成長を具体的に伝えていきたいと思います。

自分では気付いていなかった自分のよさを、誰かに見つけてもらう。「自分にはこんなよさがあるんだ」「前よりできるようになっているんだ」と自分自身で気付くことが、自信につながり、次の一歩を踏み出す力になるのではないのでしょうか。

一つの視点だけでは見えないものがあります。私たち職員も様々な視点から子どもたちを見つめ、一人ひとりのよさや成長を丁寧に見取り、それを本人に伝えていきたいと思います。そして、子どもたち同士も互いの様々なよさに気づき、認め合える学校を、これからもつくっていききたいと思います。

◎学校ホームページをご覧ください◎

※各学年の活動や学校からのお知らせなどを掲載しています。ぜひご覧ください。
URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/minamiyamata/>